

Title	ダイアログの快樂：オイラのぴょん吉編
Author(s)	尾崎, 大助
Citation	臨床哲学のメチエ. 2004, 13, p. 22-23
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/71169
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

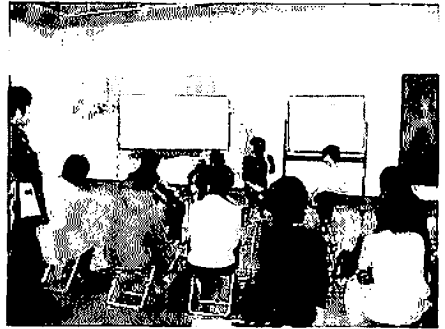
ダイアローグの快楽
～ オイラのひょん吉編～

尾崎大助

本来ならばこの企画でカフエを運営したafternoonの立場から、私は書くべきかもしれません。しかし、私はafternoonを通じて自分なりのアートとの距離を探りたい、そしてそれを、企画との出会いを、人との出会いを満喫したいと思っています。ですから、今回出会うことができたダイアローグの感想を以下に書くことで、私からの言葉に
かえたいと思います。

「ここに私じゃない誰かがいれたいのに」
こ最近、作品を目の前にしてしばしばこう思うことが私にはあります。これは私の友人のえしさのせいではないと思います。なぜなら、十月十六日以来、そう思うようになったからです。きつと、ダイアローグのせいだと私はふんでい
るのです。

一人で作品と向きあうとき、だんだん作品から受ける感じが変化する、ってなことはよくありました。ずーっと作品の前にいると、ほんのちよつとした彩度とか素材の質感に気がついて、作品が少し違って見える、こんな経験です。



がアートから逃れられない訳の一つでした。
作品が変容させられていく快楽。ダイアローグは新しい訳を示唆することで、私をより逃れられなくしたのです。

それは野村さんの作品が、ある瞬間には血の鉄臭さに、ある瞬間には火の熱さに、ある瞬間には戦争の悲惨に、ある瞬間には色そのものに変容させられていく過程です。そしてまた、それは私じゃない誰かの発言のたびに、そのつど私にとつての作品が変容されていく過程です。それは私にとつての作品を、私じゃない誰かの発言の働きかけに委ねる気ままな過程です。そして同時に、そんな気ままな私の発言が、私じ

作品を
変容させ
ていく快
楽。作品の
前に長い
間たちど
まること
のできる
比較的暇
な人だけ
が味わえ
るのであ
うこのさ
さやかな
快楽が、私

い誰かにとつての野村さんの作品に働きかけて
いるかもしれない不思議な交流です。

一人で作品と向かいあうときに作品が変容して
いく快楽と、ダイアローグで感じた作品が変
容されていく快楽との違いが私には言葉にでき
ません。とくかく違います。壁あてと田になっ
てみんなでするキャッチボールくらい違います。
マスターベーションとセックスくらい違います。
私じゃない誰かの投げた球が私の位置に働き
かけて、その働きかけられた位置から私が誰か
の位置に働きかけること。ちよつと意地悪して
いきなり誰かがけて速い球を投げると相手か
びっくりすること。その相手がおもいつきり速
い球を投げかえしてくること。その後、してやっ
たり顔をする。田の中心にフライを投げた
ら誰かが落下点に二目散に撃け付けさる。壁
あてでは経験できないことが、田になってみ
んなでするキャッチボールすると経験できる。
この違い。フェリチオされているときにクニニ
しようかなと思うこと。クニニしているときに
69にもちこもうとすること。相手が体をくわら
せたのをきつかけに体位がかわること。マス
ターベーションでは経験できないことが、セック
スでは経験できる。この違い。うまくはいえませ
んが、そんな愉しみをダイアローグの中で感じ
ました。

それにも関わらず、ダイアローグの快楽がま
してくるほど、キャッチボールが中断する大變

投を投げられたいー(投げたいー)場違いなところを愛撫されたいー(愛撫したい)なんて思う。「オイラのびん吉」(根性ガエル)が人の胸には一匹くらはいるものですね。

ダイアローグ中にいくつもあった。ついつい「オイラのびん吉」を静止できずに飛び出した発言も刺激的で素敵でした。少しおりこうさんすぎた自分の発言に反省しつつ、次のダイアローグは「オイラのびん吉」の勃起に身をまかせてもいいかと思っています。そんなひろしに思いをはせつつ、感想をおわることじょうと思えます。

おさぎだいすけ (after 5 art 現代美術好き)

小学校の「ガンバリ水泳」(25メートル泳げない子供のために夏休み期間中に行われる授業)で、権力の恐ろしさを身をもって味わったのをきっかけに、現代美術に迷い込む。ぼややなく「アオイスキヤラリー」に拾われ、after 5 artの運営に携わる。ソクラテスってただのアホなんちゃうんーって思っちゃったりお茶田は二十二歳。世時(ちなみに、今母が関西学院大学の経済学研究科(マスター)に進学。